

オルフオイス I

君は豎琴をかきならし
うたひながら歩いて行く
春の埃をあびながら
町の窓を見上げながら

なぐさめられる日がやつて来るのは
近いことではないだらうか
君がすぎ去つて行つたのだから
キラキラと舞ひあがる光

窓にもたれて涙を流してゐる私の側で
犬が大きなあくびをした
憂鬱なひびきを胸に残して

残されたものはいつも悲しい
信じながら君を見送る
オルフオイスよ 春の埃は甘いのだらうか